3　住民意向調査

3-1　まちづくりアンケート

中心市街地活性化基本計画を策定するうえで，町民の視点で中心市街地についてのニーズや利用実態を把握し，今後の市街地の活性化やまちづくりのあり方について意見を聞き取り，町民からみた中心市街地の進むべき方向性や活性化方策を検討するための基礎資料として活用することを目的としてアンケート調査を実施しました。

（１）調査期間

平成 26 年 6 月 17 日　～　平成 26 年 7 月 4 日　（18 日間）

（２）実施方法

郵送による発送及び返信

（３）調査対象者

20 歳以上の町民 1,000 人を対象に実施。（無作為抽出）

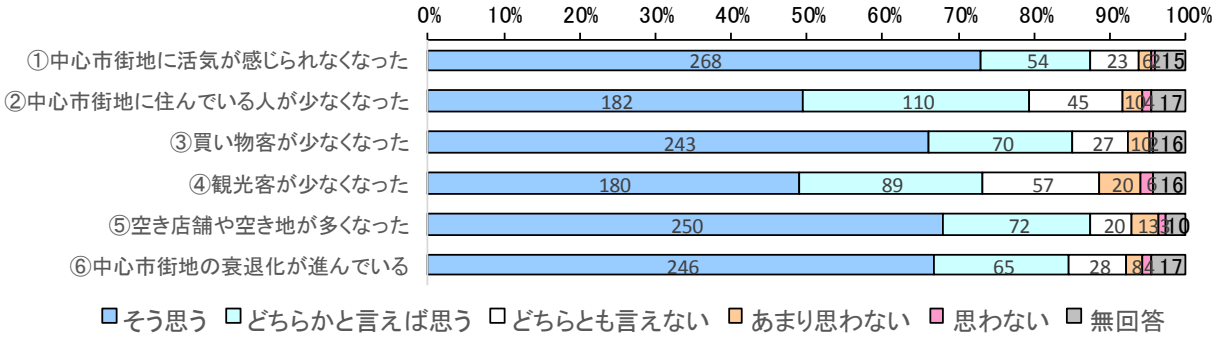
（４）回答数

368 通（368／1,000）　回収率 36.8%

（５）設問項目

⓪ 回答者属性(あなた自身について)
① 現在の中心市街地の状況について
② 大子町らしい中心市街地について
③ 中心市街地の活性化に重要なこと
④ 文化交流拠点の整備について
⑤ ④で文化交流拠点が必要でない理由について
⑥ 文化交流拠点の機能について
⑦ 文化交流拠点の管理・運営について
⑧ 自由意見（中心市街地のまちづくりについて）

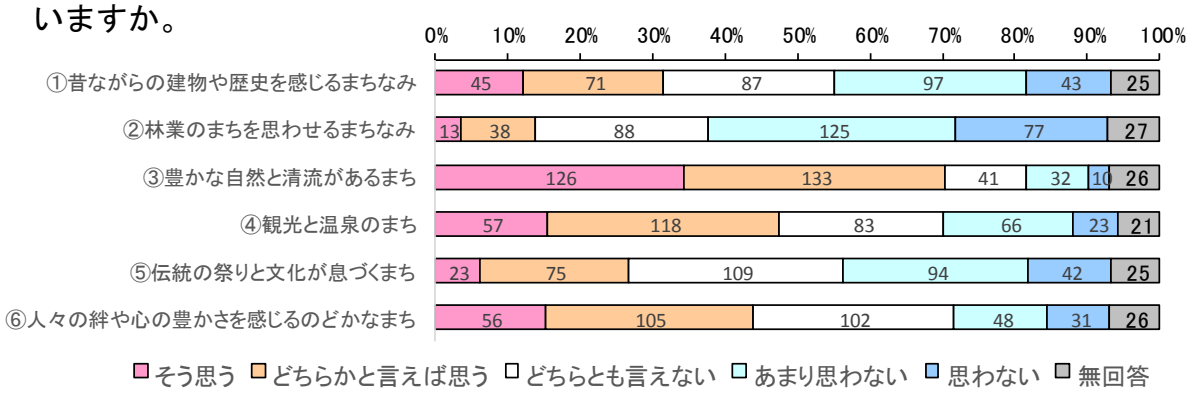
問１：【現在の中心市街地の状況】について，どのように感じますか。



現在の中心市街地の状況については「①中心市街地に活気が感じられなくなった」，「⑤空き店舗や空き地が多くなった」という回答が多くなっています。次いで多いのは，「③買い物客が少なくなった」や「⑥中心市街地の衰退化が進んでいる」となっています。

町民の意識として，買い物客の減少や空き店舗の増加などから，まちなかの活力がなくなっていると感じ，中心市街地の衰退化が進んでいると感じていることが伺えます。

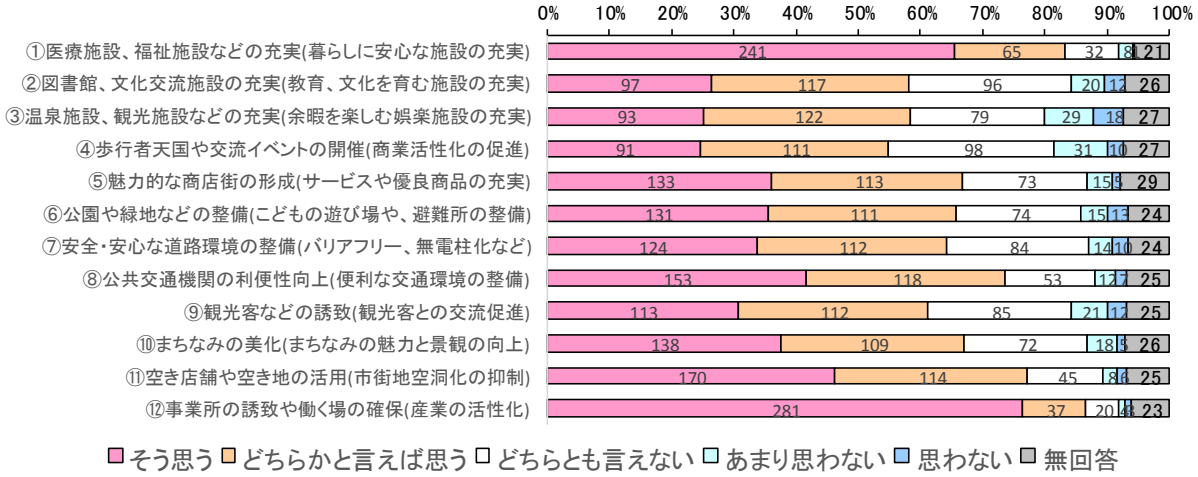
問 2：【大子町らしい中心市街地】についてどのような印象やイメージを持っていますか。



大子町らしい中心市街地の印象は「③豊かな自然と清流があるまち」が多くなっています。以下，「④観光と温泉のまち」，「⑥人々の絆や心の豊かさを感じるのどかなまち」の順ですが，年齢別集計(資料編参照)では，20～39 歳で「①昔ながらの建物や歴史を感じるまちなみ」が高くなっています。

大子町の中心市街地の印象としては，「豊かな自然と清流があるまち」が多い結果となりましたが，世代間では印象のばらつきも見られ，中心市街地の魅力を高め，大子町らしさを磨いていくことが必要です。

問 3:【中心市街地の活性化に重要なこと】は，どのようなことだと考えますか。

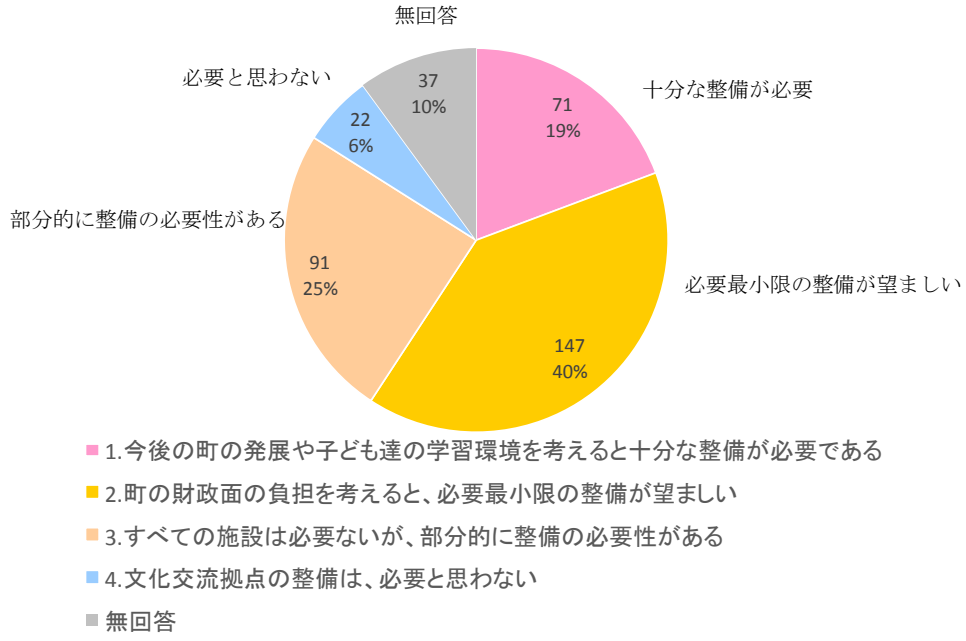


中心市街地の活性化に重要なことは，「⑫事業所の誘致や働く場の確保」，「①医療施設，福祉施設などの充実」，「⑪空き店舗や空き地の活用」の順に意見が多くなっています。

また世代間で重視することに違いが見受けられ，40 歳以上の年代では「⑧公共交通機関の利便性向上」の割合が多く， 20～39 歳の子育て世代では「⑥公園や緑地の整備」の割合が多くなっています（資料編参照）。

町民の意識として中心市街地の活性化に重要なことでは，第一に「事務所の誘致や働く場の確保（産業の活性化）」が重要であり，次いで「医療施設，福祉施設などの充実（暮らしに安心な施設の充実）」や「空き店舗や空き地の活用（市街地空洞化の抑制）」が重要である結果となりましたが，全ての項目で半数以上の人が重要と感じていることから，バランスの取れた中心市街地の環境の向上を図っていくことが必要であると考えます。

問 4：【文化交流拠点の整備】（別紙，文化交流拠点の必要性を参照）について，あなたはどのように考えますか。



アンケートに同封した文化交流拠点の基本構想をもとに回答していただいたところ，「十分な整備が必要」，「必要最小限の整備が望ましい」，「部分的に整備の必要性がある」を合わせると，何れかの形で文化交流拠点の整備が必要という回答が合計で 84%となっています。

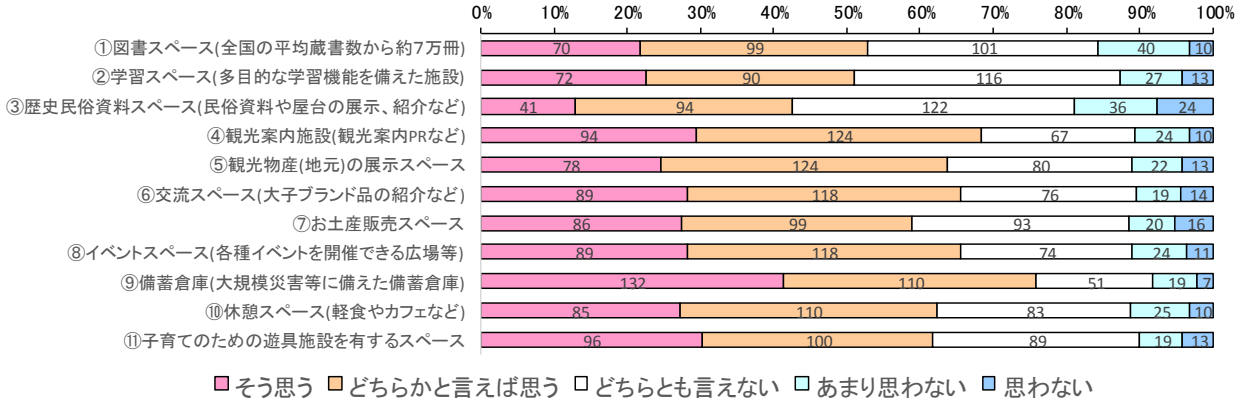
どの程度整備するのが望ましいかに関しては，「2. 町の財政面の負担を考えると，必要最小限の整備が望ましい」が 40%，「3. すべての施設は必要ないが，部分的に整備の必要性がある」が 25%，「1. 今後の町の発展や子ども達の学習環境を考えると十分な整備が必要である」が 19%となっています。

一方，「4. 文化交流拠点の整備は，必要と思わない」と回答した人は 6%に留まり，その理由については以下の問 5 の内容となっています。

問 5：問 4 で【必要と思わない】と回答した方にお伺いします。その理由についてご記入下さい。

自由意見を求めたところ傾向として多いのが，町の財政的な不安（9 件），既存の施設を有効活用するべき（3 件），空き店舗を活用するべき（2 件）などが挙げられています（資料編参照）。

問 6【文化交流拠点の施設機能】について，あなたはどのような施設機能が必要だと考えますか。

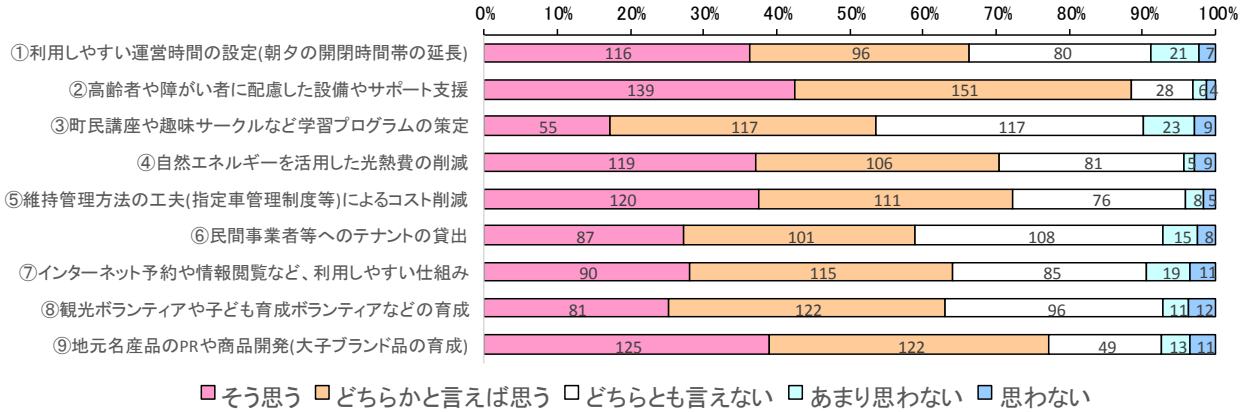


施設の機能に関して，「⑨備蓄倉庫」が必要という回答が多く寄せられ，東日本大震災などの影響もあり防災意識が高いことが伺えます。

その他の多い意見としては，「④観光案内施設」，「⑥交流スペース」，「⑧イベントスペース」，「⑩休憩スペース」，「⑪子育てのための遊具施設」が必要であるという意見が多くなっています。

また，年代別で見ると 20～39 歳の子育て世代は「⑪子育てのための遊具施設を有するスペース」が 2 番目に多くなっています（資料編参照）。

問 7【文化交流拠点の管理・運営など】について，どのような点を重視したほうが良いと考えますか。



文化交流拠点の管理・運営などで重視すべき意見が最も多かったのは，「②高齢者や障がい者に配慮した設備やサポート支援」となっています。次いで「⑨地元名産品のＰＲや商品開発」，「⑤維持管理方法の工夫によるコスト削減」，「④自然エネルギーを活用した光熱費の削減」などが多くなっています。

年代別では，20～39 歳では「①利用しやすい運営時間の設定」が多くなっており，40～59 歳では「⑦インターネット予約や情報閲覧など，利用しやすい仕組み」が多くなっています（資料編参照）。

問 8：【自由意見】中心市街地のまちづくりについて，アイデアや意見等がありましたらご記入願います。

＜主な記述の内容＞

■企業の誘致，雇用の場の創出(26 件)

〇若い人のための雇用の場の創出(16 件)

・若い世代が離れていくのは，働き場所が無く，医療施設もすぐ近くにないため，生活の基盤が築けないのが原因。

・まず働く場所を作り若者を定住させ，人口を増して，環境を住みよく，安全なところを作る考えとしたほうがいい。

・商店街に活気が無いのは人口減のほかにない。毎年高卒者が町外へ何百人も出てしまう。流出人口を減らすために男女とも働ける雇用の場をつくることが第一条件である。

・若者人口増のため，町出身者で事業に成功している方々をリストアップし大子での事業所進出をお願いしてはどうか。

〇その他雇用創出の意見(10 件)

・大手企業でなくても 10～20 人の少人数の雇用の場が必要だと思う。大子は観光や農林業環境に恵まれているため，それぞれ利用して子育て支援，長寿社会，学識経験者たちが多数力を入れてまちづくりに頑張りたい。

・“大子町らしい中心市街地”は，少子高齢化や住民流出を踏まえて，働く場の確保，社会福祉の充実をサポートするための中心地的な姿ではないか。

・高齢者自らが働ける場所(企業)を確保し(シルバー人材センターではなく)，高齢者を内外から受け入れ，大子町への住み込み従業員的な精神で高齢者の暮らしを支えることができたら，終の棲家として魅力的な町になるのでは

■まちなかの魅力向上(21 件)

〇若い人が買い物や娯楽を楽しめるまちなか(5 件)

・カラオケ店(子供も行ける所)や CD がレンタルできて，本も購入できる店がほしい。

・スケートボードを通じて若い人たちと交流があるが，公園が 9 時でしまるため長時間できず，内原まで行ったことがある。スケートボードができるスペースがあれば，若者も遊ぶ環境ができて，過疎化も防げるのではないか。

〇駅前商店街を昭和レトロ風のまち並み(4 件)

・若い人たちも立ち寄れる雑貨屋やカフェなどレトロな感じの街並みなら，観光も人も増えそう。笠間は若い人が歩いているのを見る。

〇まちなみ景観の向上(3 件)

・長期計画で，色高さ使用材料などを制限する景観条例を制定し，町全体が観光地になる様に。

・林業のまちなので間伐材を使った遊具や建物を多く作るなど，他にはない大子町らしいものを考えてほしい。

・商店街にはすてきな景観が多くあるので，そこを活かして観光客を集客し，多くの人が利用したくなる施設を造るべき。

〇子供を遊ばせてあげられるまちなか(3 件)

・温泉が出るのなら，子供が遊べる(水遊び)施設を作る。

〇アーケード商店街(2 件)

・大子町の名産品や自慢できる一品をブラブラ歩きながら買えたり，楽しめたりできるアーケード街など。

〇高齢者がゆっくりくつろげるまちなか(2 件)

・老人・温泉のまちにふさわしく，病院の帰り待ち時間などに気軽に温まれる「足湯」に浸れたらおしゃべりしながら楽しめるように思う。帰ってすぐ食べられるようなおかずや菓子がそこで買えたらもっといい。

〇商店街に人を呼ぶ仕組み(2 件)

・イベントで人を集めるとイベントがないときは，お店も困ってしまう。大子町に住んでいる人も大子町で買い物を進んでするような企画を考える。大子町のお店で買い物した人はポイント制にして温泉券や商品券を発行するとか。

■地域資源やイベントを活かした活性化のアイデア(10 件)

・近年まちなかのイベントが周知され，集客力も上がってきたと思うが，通年で集客力をあげないといけない。特に食べ物を充実させる。ご当地グルメで大分の鳥から揚げ，秋保のおはぎみたいな行列のできる店がほしい。

・“観光客がお金を使いたくなる”物や場所が増えたら，イコール活性化につながると思う。商店街の通りで現代風のライトを使うと夜の街並みがおしゃれに見えそう。商店街の旗を“しゃも組合”の紺基調にする。たきまるくんのおみやげを増やすとママの口コミで近隣地域に広がるのでは。

・観光客を集めるという点において，どこにでもあるような一般観光客を集める施設を造るのではなく，大子町近隣(水戸～郡山位)をターゲットとし，日帰りで少し遊んで帰るような施設を目指したほうが良いと思う。大子町に来るその行き帰りの道中でお金を落とすことで，大子町全体に経済効果と新たな商工業のチャンスを創出することが重要と考える。

・イベント開催の敷地又は「まいん」での催し時の駐車場としての利用敷地空間を十分に確保して欲しいです。

・駐車場が久慈川沿いにほしい。川遊び，バーベキューのほかに，特に 6 月以降は鮎釣りで釣り人が増えるため

■空き店舗・空き地の活用(7 件)

・空き店舗の活用を希望する人に対し，利用しやすい支援を行い，まちなかの活気を取り戻す。

・空き地に多くの花を植える。季節の花々があると良いかなと思います。

・町の収入を上げるために，耕作放棄地などを町でまとめて，漢方薬の植物を栽培してほしい。漢方薬の会社は積極的に国内栽培を進めている。夕張でも行っている。

■公共施設に関する意見(7 件)

・歴史的文化価値の高い資料の保存が課題であれば，一時的に国や県に貸し出すなど工夫して対応できるのでは。

・維持管理費を考えるべき。観光客を呼ぶのなら，人は何を求めて集まるか等，もっとリサーチが必要です。

・矢祭町は予算をかけないで全国から 43 万冊余の図書の寄贈を受けて運営している。予算をかけない工夫をする。

■住民のまちづくり意識の向上(5 件)

・観光客を増やしたいなら，「また来たい」と思ってもらえるおもてなし精神が必要。官民協働でまちを盛り上げてほしい。

・観光地として中心街に空き店舗などないほうが良いだろうし，来てよかった，住んでいて充実だ，と感じる町が良いだろうと思うが，町民一人ひとりが，何が課題でどう改善されていけば良いまちづくりになるのかが目に見えてわかるといいなと思う。そのような展示スペースも文化施設にあってもいいのでは。

・大子町は，画家・陶芸家・音楽家などの芸術家，文化人がたくさんいる。そのあたりも PR してほしい。

■健康的な暮らし(4 件)

・まちなかにスポーツジムなど健康維持のための施設があればいいと思う。

・自然を利用した公園の整備。健康管理のためのスポーツ施設。サイクリング・ウォーキング・ランニングコース（体力に応じたコース設定）等の整備を提案する。

■医療機関の充実(3 件)

・公立の病院等，検討してほしいです。

■様々な機能が集まるコンパクトな街(2 件)

・町の中心に様々な施設が集まっているとよい。今は車でも不便で，歩いても障害物だらけで不便。

中心市街地活性化のアイデアや意見を伺ったところ，働く場所の確保が必要である旨の回答が 26 件と目立ち，若者が働く場がない為に地元に残れないなどの意見が多く寄せられています。

次いで多いのはまちなかの魅力向上に関するもので，そのほか，地域資源やイベントの活用，空き店舗・空き地の活用，公共施設に関するもの，住民のまちづくりの意識向上，健康的な暮らし，医療機関の充実，様々な機能が集まるコンパクトなまちにすることなどに関するアイデアや意見が寄せられています（資料編参照）。

3-2　アンケート結果のまとめ

問 1：【現在の中心市街地の状況】について

町民の意識として，買い物客の減少や空き店舗の増加などから，まちなかの活力が低下し中心市街地の衰退化が進んでいると感じています。

中心市街地の現状の課題としては，空き店舗の増加や買い物客の減少が挙げられ，国道 118 号バイパス沿道の郊外部への大型店の出店や，統計データで近隣市町村への流出傾向があることから，中心市街地の商店会等が協力し合い，商店街の魅力向上やサービス向上のための取り組みを進め，買い物客ニーズに合った個性的で魅力的な商店街を創り上げることが必要となります。

問 2：【大子町らしい中心市街地】について

町民が思う大子町の中心市街地の印象として最も強いのは，「豊かな自然と清流があるまち」となっています。また，世代間では印象のばらつきも見られ，若い世代では「昔ながらの建物や歴史を感じるまちなみ」の印象も高まっています。

これらの要素をもとに，大子町らしさを磨いていくことで中心市街地の魅力を高め，町民の誰もが誇れる大子らしいまちなみの形成を進めるとともに，愛着を持てるまちなかの雰囲気づくりをしていくことが必要です。

問 3：【中心市街地の活性化に重要なこと】について

町民の意識として中心市街地の活性化に重要なことでは，第一に産業の活性化として「働く場の確保」が重要であり，次いで暮らしの安心として「医療施設の充実」や市街地空洞化の抑制として「空き店舗の活用」が重要であるとしています。

また，世代間で重視する内容に違いが見受けられ，40 歳以上の年代では「公共交通機関の利便性向上」， 20～39 歳の子育て世代では「公園や緑地の整備」が望まれています。

これらのことから中心市街地の活性化には，上記の内容を重視するとともに，その他の項目も半数以上の人が重要と感じていることから，バランスの取れた中心市街地の環境整備を図っていくことが必要であると考えます。

問 4，問 5：【文化交流拠点の整備】について

文化交流拠点の整備に関して，町民の意見は，何れかの形で文化交流拠点の整備が必要という回答が 84%となっています。

どの程度の整備が望ましいかに関しては，「必要最小限の整備が望ましい」が 40%，「部分的に整備の必要性がある」が 25%，「子ども達の学習環境を考えると十分な整備が必要」が 19%となっています。

一方，「整備は必要でない」と回答した人は 6%に留まり，町の財政的な不安を理由とした意見が主となっています。

これらのことから，文化交流拠点の整備については，必要最小限の整備を考えるとともに，文化交流拠点として必要とされる機能を十分に考えながら整備することが望まれます。

問 6【文化交流拠点の施設機能】について

文化交流拠点の施設機能として,「観光案内施設」,「交流スペース」,「イベントスペース」,「休憩スペース」,「子育てのための遊具施設」が必要であるという意見が多くなっています。

また，年代別で見ると 20～39 歳の子育て世代は「子育てのための遊具施設を有するスペース」の割合が高くなっています。一方で年齢層が高くなると,「観光案内」機能や大子ブランド品を紹介する「交流スペース」を必要とする回答の割合が高く，交流を中心とした拠点整備が望まれています。

これらのことから若い世代ではより安心して子育てができる拠点施設の利用と，中心市街地の交流促進を強化するために，観光案内や特産品を活用した交流機能を促進する施設の整備が必要とされています。

問 7【文化交流拠点の管理・運営など】について

文化交流拠点の管理・運営などで重視すべき意見が最も多かったのは,「高齢者や障がい者に配慮した設備やサポート支援」となっています。次いで「地元名産品のＰＲや商品開発」,「維持管理方法の工夫によるコスト削減」,「自然エネルギーを活用した光熱費の削減」などが多くなっています。

また，年代別では，20～39 歳では「利用しやすい運営時間の設定」が多くなっており，40～59 歳では「インターネット予約や情報閲覧など，利用しやすい仕組み」が多くなっています。

以上のことから，多くの人が利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した設備を考えるとともに，維持管理のコスト削減を目指した施設整備が望まれます。

問 8：【自由意見】中心市街地のまちづくりについて

○企業の誘致，雇用の場の創出

中心市街地の活性化を図るには，雇用の創出が重要と考える意見が多くなっています。若者が働く場がない為に地元に残れないなどの課題や，高齢化が進むことから，高齢者が働ける場所の確保も必要であるとの意見が出されています。

このように，中心市街地において，少数規模でも雇用に結びつく活性化方策が求められ，企業誘致や雇用の創出に向けて，本町出身者の事業者への誘致促進，地場産業を活かした雇用の期待など，大子町の特長を活かした雇用の創出に期待が寄せられています。

○まちなかの魅力向上

中心市街地に求める機能として，若年層が楽しめる商店街の魅力向上や，子ども，高齢者がくつろげるまちなかの環境向上が望まれており，まちなかの魅力向上のため，大子町の雰囲気に合った昭和レトロ風のまちなみや，温泉を活用した施設などにより，歩いて楽しめるまちなかの魅力づくりを進め，若者の定住や観光客の増加に結び付ける意見などが出されています。

また，商店街のサービス向上や，まちなみ景観の向上のためのルールづくりなど，中心市街地の魅力向上に向けた仕組みづくりが望まれています。

○地域資源やイベントを活かしたまちなかの活性化

まちなかでのイベント開催時には多くの観光客が集まるものの，通年では集客力がなく，中心市街地自体の求心力の向上が問われています。大子町の特産品や名産品を活かし，中心市街地に人を集める取り組みを進めることが望まれています。このようなことから，まちなかでの定期的なイベント開催により，効果的にまちなかに人を呼び込むとともに，特産品や名産品を活かし，“大子町らしさ”を創っていくことが必要です。

また，大子町を訪れる観光客はマイカー利用が多く，イベント時の駐車場の確保などが課題となっているため，市街地周辺の遊休地の利用や公共交通の利用促進などの検討も望まれます。

○空き店舗，空き家の活用

まちなかの空き店舗や空き家の増加が課題として挙げられており，それらの解消策として，空き店舗や空き家の利用促進の仕組みづくりが求められています。空き店舗などの有効利用促進を図り，まちなかの雇用創出や経済の活性化に取り組み，中心市街地の活力を取り戻すことが望まれます。

○公共施設に関する意見

公共施設の整備や維持管理に関して，費用削減の仕組みや工夫を求める声が挙がっています。

○住民のまちづくり意識の向上

住民のまちづくり意識に関して，来訪者へのおもてなしや，住みやすいまちづくりに向けた官民協働の取り組みが期待されています。

○その他，安心な暮らしの向上

大子町で安心して暮らすために，医療機関の充実や便利施設の集約など，コンパクトで便利な市街地の形成が望まれています。また，大子町の豊かな自然を活かし，健康増進やレクリエーションが楽しめる市街地の環境整備が望まれています。

3-3　まちづくりワークショップ

（１）　まちづくりワークショップの目的

中心市街地の活性化のためには，そこに住む住民が主体となってまちづくりを考えていくことが重要であり，ワークショップの開催等により自分たちのまちをどのように変えていくべきか，住民同士が話し合える機会と自己啓発につながる場をつくることで，住民参加型のまちづくりを推進するとともに，住民の意見をまちづくりに反映していくことを目的として実施しました。

（２）ワークショップの開催テーマ

平成 25 年度策定の「中心市街地活性化基本構想」から，主要となるまちづくりの方向性として，「文化交流拠点の整備（拠点施設の検討)」と「公共インフラ整備及びまちなみ景観（中心市街地の整備の検討)」をワークショップのテーマに設定し，住民の意見をまちづくりに反映するためのワークショップを開催しました。

（３）ワークショップの参加者

1班 文化交流拠点の整備について

No.	団　体　名	人　数
1	大子町商工会 青年部	1
2	大子町商工会 女性部	1
3	大子町観光協会	1
4	大子町飲食店組合	1
5	大子町企業連絡協議会	1
6	近町町内会	1
7	泉町町内会	1
8	本町町内会	1
9	大子町連合若連	1
10	依上小学校	1
11	生瀬小学校	1
12	上小川小学校	1
13	大子幼稚園父母と先生の会	1
14	大子町交通安全母の会連合会	1
15	大子町消防団	1
16	大子町社会福祉協議会	1
17	大子町民生委員児童委員協議会	1
18	茨城県水郡医師会	1
19	大子町青少年育成町民会議	1
20	大子町生涯学習課	2
21		

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

No.	団　体　名	人　数
1	大子町商工会 青年部	2
2		
3	大子町商工会 女性部	1
4	大子町観光協会	2
5		
6	大子町商店会	1
7	大子町飲食店組合	2
8		
9	栄町町内会	1
10	金町町内会	1
11	愛宕町町内会	1
12	小久慈町内会	1
13	大子町連合若連	1
14	だいご小学校	1
15	さはら小学校	1
16	黒沢小学校	1
17	袋田小学校	1
18	大子町消防団	1
19	観光ボランティア大子	1
20	大子町文化福祉会館自主事業運営委員会	1
21	大子町建設課	1

（４）ワークショップの体制

まちづくりにおける，「官」「民(産)」「学」連携を促進するにあたって，行政職員のワークショップ参加と，主体となる住民からは，中心市街地の各町内会や商工会，学校関係者など幅広い住民の参加を設定するとともに，住み良いまちづくりを進める上で女性の意見が重要となることから，女性の参加者を増やすことに配慮しました。

また，ワークショップの妥当性を検証する上でも，学術的な視点からワークショップの進行をチェックするため，茨城大学の協力を得て進めるものとしました。（ワークショップアドバイザー：茨城大学 市民共創教育研究センター長　斎藤 義則 教授）

（５）ワークショップの開催経緯と実施概要

第１回　まちづくりワークショップ

日時：平成２６年6月１５日（日）14：00～17：00

場所：大子町文化福祉会館「まいん」１階　観光交流ホール

ワークショップ概要

１班　文化交流拠点の整備について

- 既存公共施設の使いにくい点について意見の取りまとめ
- 文化交流拠点施設の役割や機能について意見の取りまとめ
- まちなかに不足している機能について意見の取りまとめ
- 大子町の良い点について意見の取りまとめ

２班　公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- まち歩きを行い，まちなかの良い点と課題点について意見の取りまとめ

第２回　まちづくりワークショップ

日時：平成２６年７月２４日（木）18：00～20：20

場所：大子町文化福祉会館「まいん」１階　観光交流ホール

ワークショップ概要

１班　文化交流拠点の整備について

- 自分が思い描く拠点施設の機能や利用方法について，各自まちづくりの物語（コンセプトワーク）を作成してもらい，拠点施設をどのように活用していくか意見の取りまとめ

２班　公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- 自分が思い描くまちの将来像について，各自まちづくりの物語（コンセプトワーク）を作成し，どのようなまちにしていくのか意見の取りまとめ

第3回　まちづくりワークショップ

日時：平成２６年8月２１日（木）18：00～20：20

場所：大子町文化福祉会館「まいん」１階　観光交流ホール

ワークショップ概要

１班　文化交流拠点の整備について

・皆さんから提案のあった拠点施設の物語(コンセプト)について，１つの共通の物語(コンセプト)に意見の取りまとめ

結果→【子ども・女性とお年寄りが安心してなつかしいくらしを楽しむ拠点】

・拠点施設に導入する施設機能の絞り込みについて，意見の取りまとめ

結果→【観光･物産案内】【土産販売】【歴史･文化】【イベント】【休憩】【教育･学習】

２班　公共インフラ整備及びまちなみ景観について

・皆さんで考えた「まち物語(コンセプト)」について，意見の確認を行い，１つの共通の「まち物語」について議論をした

結果→【まちづくりの個性を考える】まちづくりは個性が重要であり，個性がないと普通の道路，普通の施設，普通のまちなみが出来上がる。大子の特徴（地域資源）を活かすことが重要となる。

【主体となる対象を考える】どのようなまちづくりを目標とするか，観光の視点でまちづくりを考えるのか，暮らしの視点でまちづくりを考えるのか，何を目標とするかで整備の方向性も違ってくる。

第4回　まちづくりワークショップ

日時：平成２６年9月１９日（金）18：00～20：20

場所：大子町文化福祉会館「まいん」１階　観光交流ホール

ワークショップ概要

１班　文化交流拠点の整備について

・拠点施設の機能の配置を検討するため「ゾーニング模型」の作成を行った。

結果→３チームに分かれて，前回絞り込んだ６つの拠点機能（観光･物産案内，土産販売，歴史･文化，イベント，休憩，教育･学習）から「メイン機能とサブ機能」，「各機能の規模」を考えた。

２班　公共インフラ整備及びまちなみ景観について

・前回に引き続き，「まち物語(コンセプト)」について，１つの共通の「まち物語」に意見をまとめた

結果→【子ども・女性・高齢者が輝き　温泉と川に囲まれて　懐かしく夢を持って暮らせるまち】

・今後，具体的に検討を進めていく事業の案について，基本構想で考えた７つの主要事業について意見交換を行い，具体的に検討していく事業内容について意見をまとめた

結果→【①板倉・板塀の風情を活かした景観整備】
【②奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備】
【③町堀と水辺を活かした景観整備】
【④歴史的建造物を活かしたまちなか拠点整備】
【⑤温泉を活かした癒し空間の整備】
【⑥空き店舗を活用した交流と活力の場整備】
【⑦文化交流拠点整備】
【⑧地元食材を生かした６次産業の推進】

第５回　まちづくりワークショップ

日時：平成２６年１０月１７日（金）

場所：大子町文化福祉会館「まいん」１階　観光交流ホール

ワークショップ実施予定内容

１班　文化交流拠点の整備について

・拠点施設を整備する際の「留意点」や「工夫」のアイデアを検討する。

２班　公共インフラ整備及びまちなみ景観について

・具体的に検討していく事業について，行政と町民の役割分担，整備の優先順位，まちづくりのルールなどについて検討する。

※各ワークショップの詳細内容は「資料編」に掲載しています。

3-4　ワークショップのまとめ

（１）文化交流拠点の整備について

文化交流拠点の整備について，ワークショップの結果のまとめを以下に整理します。

項　目	ワークショップの結果のまとめ
コンセプト	子ども・女性とお年寄りが安心してなつかしいくらしを楽しむ拠点
導入機能	【1 班】 ・メイン機能：観光・物産，歴史・文化，教育・学習 ・サブ　機能：土産販売，イベント，休憩 【2 班】 ・メイン機能：観光・物産，土産販売，歴史・文化，教育・学習 ・サブ　機能：イベント，休憩 【3 班】 ・メイン機能：教育・学習，休憩，歴史・文化 ・サブ　機能：観光・物産，土産販売，イベント
建築物等	【1 班】 ・1 階が屋台会館，2 階が図書館，屋上は展望台(休憩拠点) ・観光・物産拠点は古民家風にしてお茶や野菜を売る。 ・歴史・文化拠点は石蔵風。屋台だけでなく大子の祭りなど，さまざまな展示。 ・教育・学習施設は現代風にするなど，駅側の建物から「江戸→昭和→現代」とテーマが移り変わるようにする。 ・図書館は，１階は静かに勉強できる空間，またミニシアターを設置し大人も子供も楽しめるようにする。２階はオープンデッキを設けて休憩できるようにする。 【2 班】 ・1 階に歴史・文化拠点，2 階に教育・学習拠点。 ・屋台は，7 台常設ではなく 1 台ずつ交代で展示する。 ・祭りなどを紹介・展示できるスペース（写真可） ・観光・物産拠点は駅から分かりやすいようにする。(近くに駐車場があったほうがよいので隣接させる) ・歴史・文化拠点は高い屋台に応じて，高低差(段)をつける。 ・2 階までスロープで上がれるようにする。 ・休憩拠点はガラス張りの休憩スペースにする。 ・1 階入口の上部に 2 階がせり出す形にし，雨天時でも車いすなどの人濡れない。 【3 班】 ・学習スペースを兼ねた図書館を１階に，歴史文化も一緒に学べるところを２階において，民具や土器を展示する。 ・若年女性が住みたくなるような町を考えた結果，これまで考えてきたような施設や建物を作らずに，敷地全部を芝生スペースにするほうがいいのではないか。

敷地等	【1 班】 ・普段は駐車場とし，イベント時はそこを使う。 ・道路沿いに緑を植える。 【2 班】 ・イベント拠点は普段は駐車場に（イベントはテント） ・水郡線との間に遊歩道を設け，役場方向や袋田に繋ぐ。 【3 班】 ・緑を多く植えて，癒しの効果が得られるようにする。 ・駐車場を広くする。また，駐車場は基本的にイベントも開催できるような状態にしておく。
その他	【1 班】 ・建物を長くし，山のように徐々に高くすることで，建物が山や水郡線などの景色を遮らないようにする。 ・屋根は植物を使った緑の屋根のイメージ。 ・教育拠点は，ガラス張りにしてオープンに。 ・２階へスロープで上がれるようにする。 【2 班】 ・教育学習拠点として図書館を造り，イベント（木工，折り紙，パソコン，スマホ教室）などを開催し，子供からお年寄りまで楽しめるようにする。 ・既存の公共公益施設の駐車場が使いにくいため，文化交流拠点は駐車場を充実させることが大切。 【3 班】 ・新たな拠点施設より，企業が進出したくなる魅力づくりにお金をかけた方がいい。 ・若い人と昔から住んでいる人との間には，まちづくりに関する考え方にギャップがあり，目指すべきまちづくりの方向が異なっている。 ・大子にあった企業を誘致できるまちづくりを目指す。

１班の結果

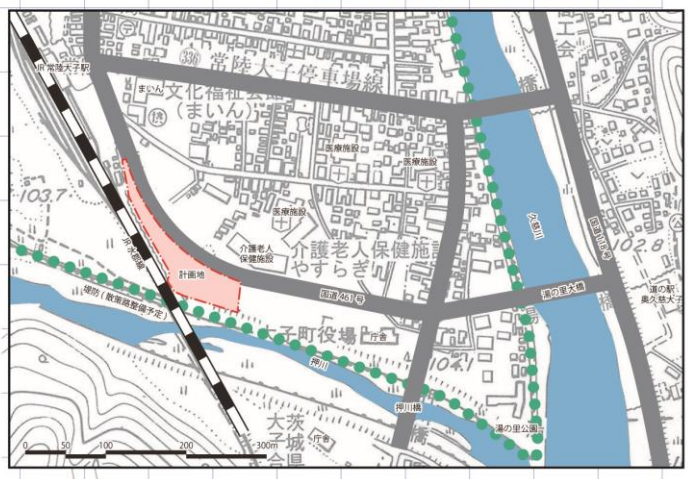
大子町まちづくりワークショップ　第1班　「拠点施設を描こう!」

拠点施設に導入する機能の絞り込み作業

拠点施設内	「既存の公共公益施設等」を有効に活用して機能を配置する				
	道の駅	まいん	役　場	空地・空家・空店舗等	その他（場所未定含む）
観光・物産案内 土産販売 歴史・文化 イベント 休憩 教育・学習	交流 歴史・文化 観光・物産案内 土産販売 休憩	交流 観光・物産案内 福祉・介護	防災・情報 ボランティア 保育	交流 女性起業 土産販売	防災・情報 （大子小などの高台や地区ごとに備蓄倉庫を配置） 教育・学習（各学校） 観光・物産案内（大子駅） ボランティア （様ざまな所で） 保育（保健センター） まちづくり拠点（未定） 生活拠点（未定）

【拠点施設が目指す物語】

子ども・女性とお年寄りが安心して
なつかしいくらしを楽しむ拠点
～懐かしさの中から未来を育む～



休憩スペース
100㎡

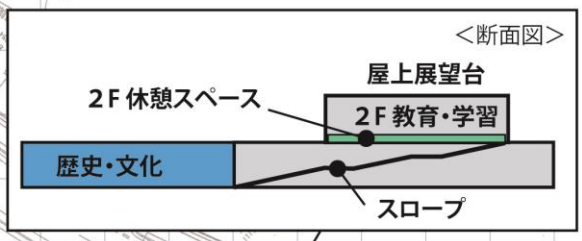
観光・物産案内
300㎡

観光・物産拠点は古民家風にしてお茶や野菜を売る。

・観光物産拠点は駅の近くにあったほうが良いので，近くにおく。
・お土産が買えるところや，アンテナショップのような所を集約させる。

緑化スペース

【建築物イメージのアイデア】
建物を長くし，山のように徐々に高くすることで，建物が山や水郡線などの景色を遮らないようにした。屋根は植物を使った緑の屋根のイメージ。教育拠点は，ガラス張りにしてオープンに。２階へスロープで上がれるようにする。



緑化スペース

・メインで「屋台会館」を作る。
・８町内の屋台が揃って展示され，ガラス張りで出来ており，通りを歩く歩行者(観光者)から見える。
・名産のこんにゃくの歴史や農機具等の道具も展示する。
・「屋台会館」は，教育・学習拠点の図書館とも一体的につながっているようにする。

歴史・文化
700㎡

イベントスペース

普段は駐車場であるがイベント時に活用する

文化拠点は石蔵風。屋台だけでなく大子の祭りなど，さまざまな展示。

1F教育・学習
1,000㎡

2F教育・学習
（屋上展望台）

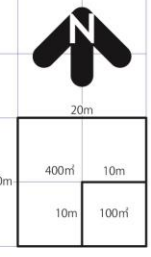
教育・学習施設は現代風にする。
駅側の建物から「江戸→昭和→現代」とテーマが移り変わるようにする。
図書館は，１階は静かに勉強できる空間またミニシアターを設置し大人も子供も楽しめるようにする。２階はオープンデッキを設けて休憩できるようにする。

歩道
国道461号
車道
歩道
役場駐車場
緑化スペース
堤防（散策路整備予定）

【6つの導入機能】	【メインorサブ】	【屋内or屋外】
・観光・物産案内	メイン	屋内
・土産販売	サブ	屋内
・歴史・文化	メイン	屋内
・イベント	サブ	屋外
・休憩	サブ	屋外
・教育・学習	メイン	屋内

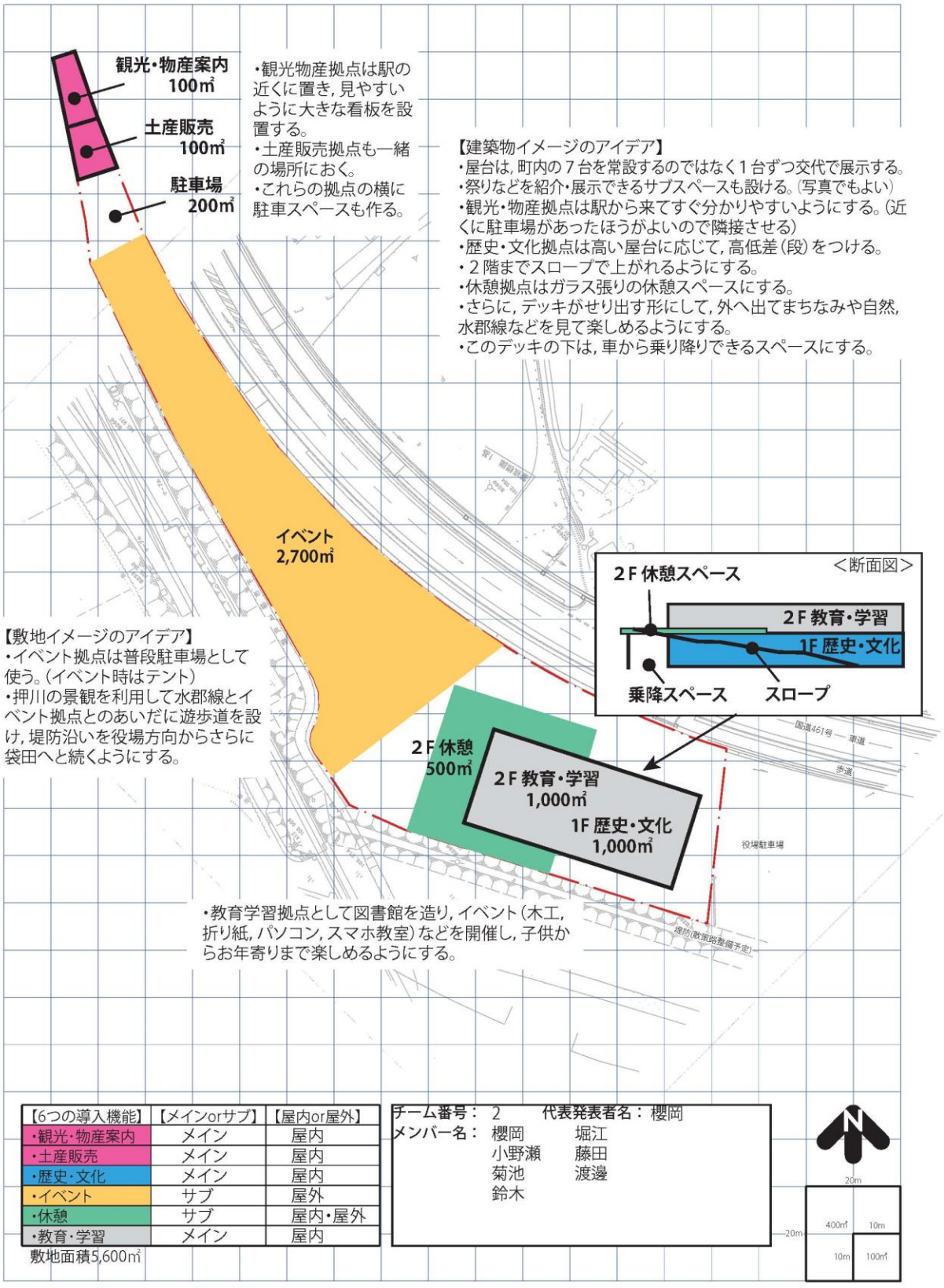
敷地面積5,600㎡

チーム番号：１　　代表発表者名：岡崎
メンバー名：杉山
長谷川
櫻井
菊池
池田



２班の結果

大子町まちづくりワークショップ　第1班　「拠点施設を描こう!」



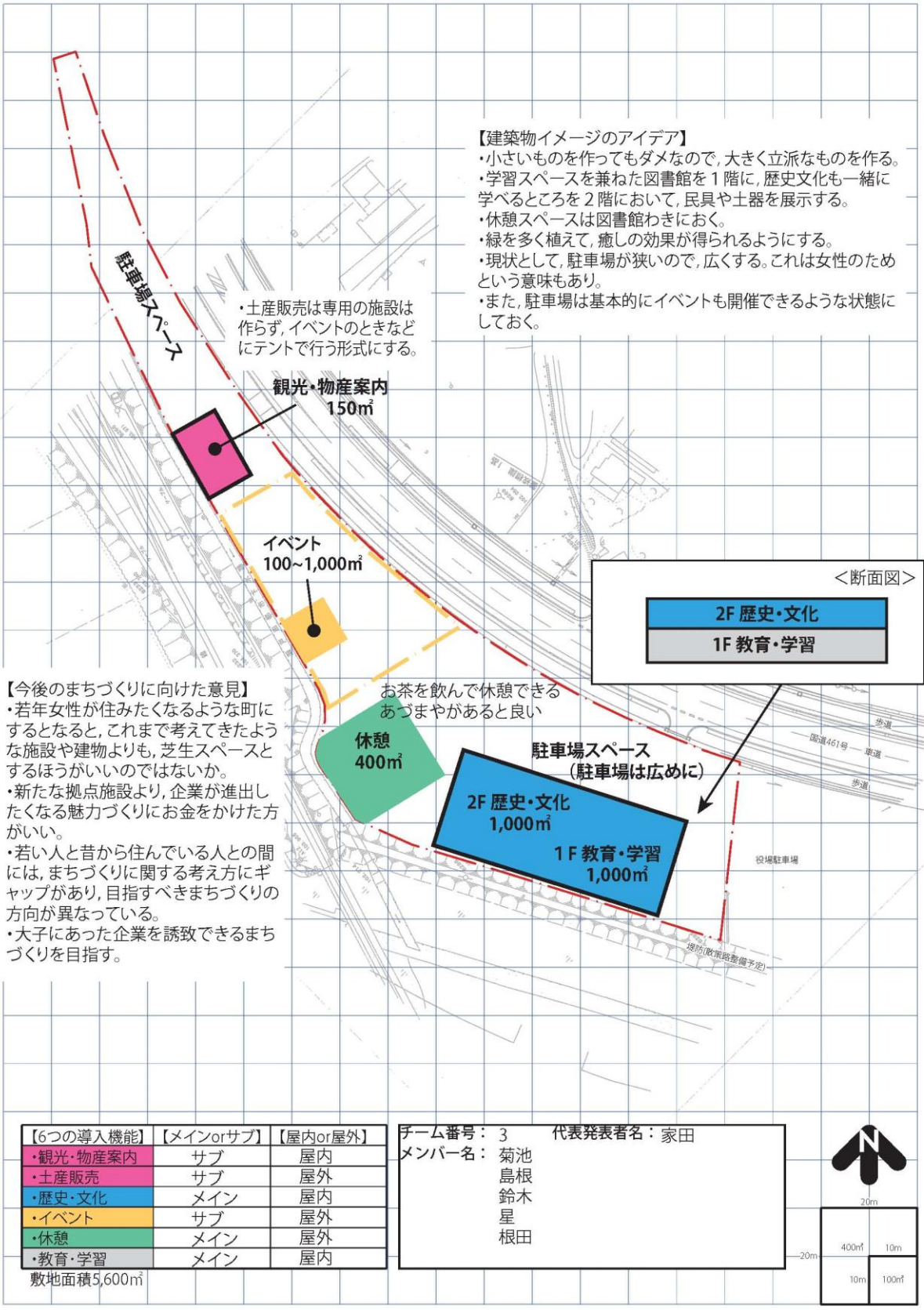
【6つの導入機能】	【メインorサブ】	【屋内or屋外】
・観光・物産案内	メイン	屋内
・土産販売	メイン	屋内
・歴史・文化	メイン	屋内
・イベント	サブ	屋外
・休憩	サブ	屋内・屋外
・教育・学習	メイン	屋内

敷地面積5,600㎡

チーム番号：　2　　代表発表者名：　櫻岡
メンバー名：　櫻岡　　堀江
小野瀬　　藤田
菊池　　渡邊
鈴木

３班の結果

大子町まちづくりワークショップ　第1班　「拠点施設を描こう!」



【6つの導入機能】	【メインorサブ】	【屋内or屋外】
・観光・物産案内	サブ	屋内
・土産販売	サブ	屋外
・歴史・文化	メイン	屋内
・イベント	サブ	屋外
・休憩	メイン	屋外
・教育・学習	メイン	屋内

敷地面積5,600㎡

チーム番号：　3　　代表発表者名：家田
メンバー名：　菊池
島根
鈴木
星
根田

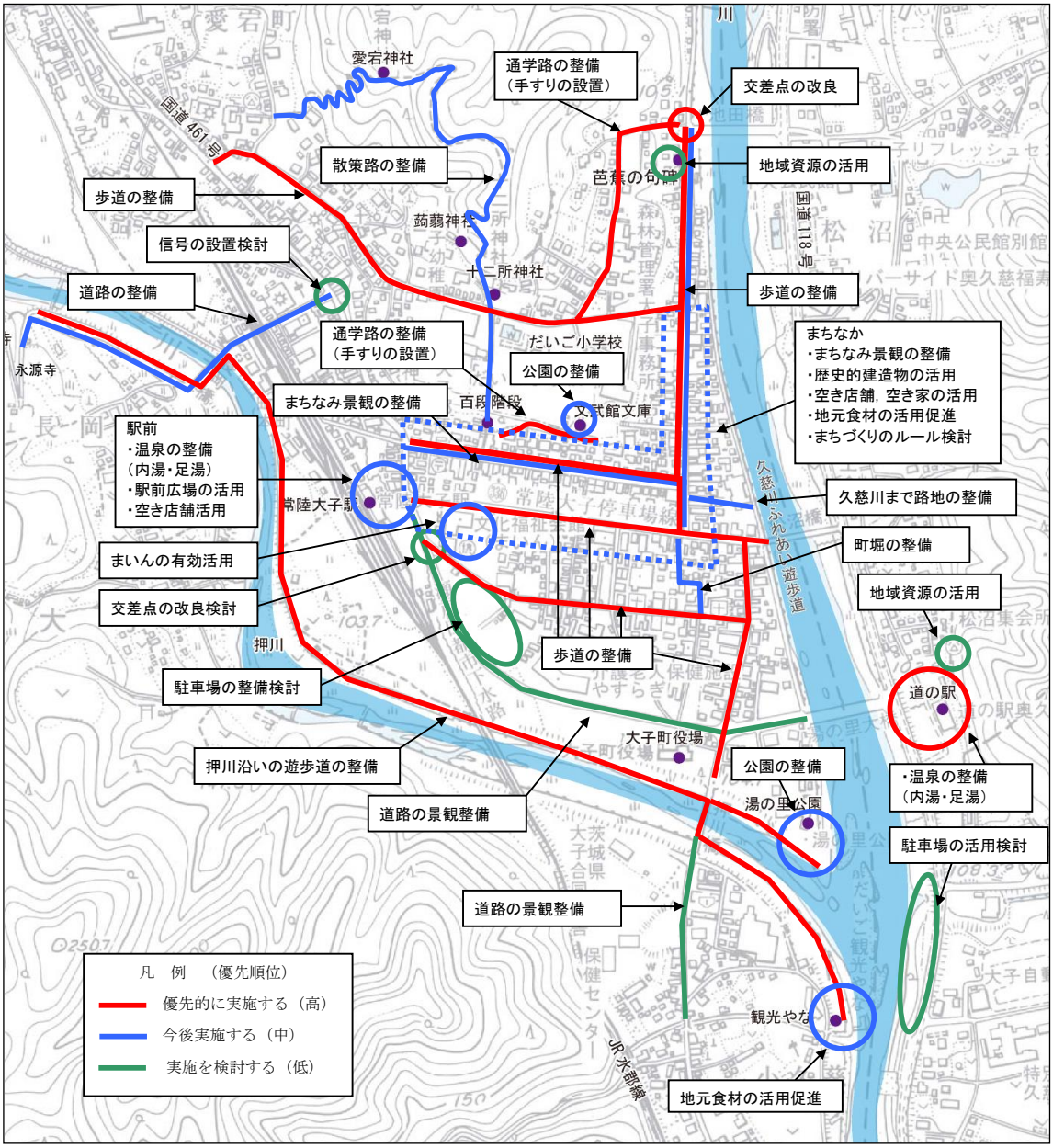
（２）公共インフラ整備及びまちなみ景観について

公共インフラ整備及びまちなみ景観について，ワークショップの結果のまとめを以下に整理します。

項　目	ワークショップの結果のまとめ
コンセプト	子ども・女性・高齢者が輝き，温泉と川に囲まれて懐かしく夢を持って暮らせるまち
優先的に実施する事業	【歩道の整備】 ・金町通り（主要地方道大子那須線） ・本町通り（町道 2511 号線） ・駅前中央通り（町道 2515 号線） ・新道通り（町道 2158 号線） ・十二所神社前の通り（町道 101 号線） ・役場前通り（町道 2459 号線） 【交差点の改良】 ・池田橋の西側交差点 【遊歩道の整備】 ・押川沿い，永源寺～観光やな 【温泉（足湯）】 ・道の駅奥久慈だいご
今後実施する事業	【歩道の整備】 ・まちなか全体 【道路・交差点の改良】 ・新道通り国道 461 号交差点 ・国道 461 号永源寺入り口交差点 ・国道 461 号から永源寺まで 【公園の整備】 ・文武館文庫付近，湯の里公園 【まちなみ景観整備】 ・本町通り，・金町通り 【町堀と水辺の景観整備】 ・泉町交差点～久保田病院の路地 ・金町通り～久慈川ふれあい遊歩道 【回遊路の整備】 ・十二所神社～百段階段～文武館文庫 ・十二所神社～蒟蒻神社～愛宕神社 【歴史的建造物の活用】 ・旧樋口病院，・まちかど美術館（旧常陽銀行），・旧筑波銀行 【空き店舗・空き家の活用】 ・駅前周辺 ・旧 NTT 大子局 ・まちなか全般 【まいんの有効活用】 ・まいん 【温泉】 ・常陸大子駅（足湯）（内湯） ・道の駅奥久慈だいご（内湯の拡張） 【駅前広場の有効活用】 ・駅前広場（タクシー乗り場） 【地元食材の活用促進】 ・まちなかの既存の施設や空き店舗の活用 ・観光やなの活用

実施を検討する事業	【まちなみ景観整備】 ・国道 461 号バイパス ・役場～観光やな 【駐車場の整備・活用の検討】 ・まいん周辺 ・道の駅奥久慈だいご周辺 【地域資源の活用】 ・芭蕉の句碑 ・大子地蔵尊

ワークショップの結果のまとめ地図



基本構想の内容とワークショップの結果の比較整合表を以下に整理します。

項　目		基本構想(H25 年度)	ワークショップの結果のまとめ	
コンセプト		どこか懐かしい昭和初期のまちなみ	子ども・女性・高齢者が輝き，温泉と川に囲まれて懐かしく夢を持って暮らせるまち	
整備の方向性	板倉や板塀の風情を活かした景観整備	【板倉や板塀によるまちなみ景観の演出】 町内には，林業のまちを思わせる板倉の建築物が多く存在する。この風情ある板倉景観を活かし，大子らしいまちなみ景観を創造する。 【整備の課題等】 修景のためには，景観に対する住民の意識醸成や，イメージの共有が必要となる。また，住民への費用負担も考えられるため，補助金等のインセンティブについても検討する必要がある。	【まちなみ景観整備】 ・本町通り ・金町通り	・板倉や石倉などの昔ながらの家屋が多く，まちなみ景観が良い。 ・電線類の地中化。 ・観光の視点からも，道路景観は重要。 ・自宅前はきれいにするなど，まちなかの景観を良くするルールが必要。
	奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備	【奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備】 大子のまちなかには奥ゆかしい路地が多数あり，住民が挨拶を交わすのどかな風景がみられる。この“どこか懐かしい”路地裏観光に着目し，生活観光の空間づくりと，まちなか回遊路の整備を図る。 【整備の課題等】 狭隘道路に構造物が入り組んでいるため，防災・防犯面や，バリアフリーなどを意識した整備が必要となる。また，オープンスペース確保のため，住民の理解と協力も必要となる。	【回遊路，遊歩道の整備】 ・泉町交差点～久保田病院の路地 ・十二所神社～百段階段～文武館文庫 ・押川沿い，永源寺～観光やな	・路地の雰囲気が良いので，町堀とあわせた整備。 ・押川沿いの遊歩道整備。花いっぱいの遊歩道にしたい。 ・花植えはボランティアを活用。 ・永源寺～観光やなまで遊歩道をつなげる。
	町堀と水辺を活かした景観整備	【水路と水辺を活かした景観の演出】 中心市街地には，押川から引き込まれる町堀が張り巡らされている。この町堀を活かし，美しい清流が流れるまちなみ景観を演出する。 【整備の課題等】 まちなかの水路は生活雑排水の排水路として利用されており，水質の浄化や排水の整備など，適切な排水計画が求められる。まちなみの景観整備と併せ，都市インフラに対しても見直しを行う必要がある。	【町堀と水辺の景観整備】 ・泉町交差点～久保田病院の路地 ・金町通り～久慈川ふれあい遊歩道	・まちなか全体の町堀整備は難しいのでモデル箇所として整備したい。 ・昔の水運の面影が残る路地の景観整備。

項　目		基本構想(H25 年度)	ワークショップの結果のまとめ	
整備の方向性	歴史的建造物を活かしたまちなか拠点整備	【歴史的建造物を活用した,まちなかの賑わい拠点整備】 まちなかには,時代を感じさせる歴史的な建造物が点在する。これらの保全や活用方法の検討を進め,まちなかの賑わい拠点として,まちづくりにおける積極的な利活用を図る。 【整備の課題等】 建物の維持管理，運営など，商工会や地域組織との連携が必要である。また，まちづくりに寄与する目的であれば,企業や法人団体等が利用できるルールづくり等を検討する。	【歴史的建造物の活用】 ・旧樋口病院 ・まちかど美術館（旧常陽銀行） ・旧筑波銀行駅前通り支店	・建物の壁の修理 ・管理や活用ルールの検討が必要 ・地域おこし協力隊の事務所として活用 ・大子町地域おこし協力隊が主体となり活用
	温泉を活かした癒しの空間整備	【整備の方針】 市街地に流れる温泉送水管を活用し,足湯などの休憩所の整備を進める。 【整備の課題等】 空き店舗の活用や温泉の民間利用なども含め,温泉インフラの維持管理手法などを検討する。	【温泉の活用】 ・道の駅奥久慈だいご(足湯)(内湯の拡張) ・常陸大子駅（足湯・内湯）	・町で整備し運営は市民レベルでもできるのではないか。 ・シルバー人材や女性の雇用を推進する。 ・既存の温泉施設を拡張。 ・まちなかへ新たな温泉施設を整備するよりも，費用面を考えると道の駅の整備を優先した方がよい。 ・鉄道の待ち時間に楽しめる。
	空き店舗を活用した交流と活力の場整備	【空き家･空き店舗を活用した交流施設の整備】 市街地には空き店舗が点在し,それらを放置すると,まちなか全体の活力の低下を招いてしまう。このような空き店舗対策として,町民や観光客が交流できる利便施設の整備を図り,市街地における交流と活力向上を促進する。 【整備の課題等】 まちなかの交流の場とするため,空き店舗の活用ルールや管理･運営の仕組みについて検討が必要。	【空き家･空き店舗の活用】 ・空き前周辺 ・旧 NTT 大子局 ・まちなか全般	・観光協会が主体となり,観光案内所として活用する ・営業所の有効活用 ・資料館として活用検討 ・空き店舗使った学童保育 ・町民の交流スペースとして活用

その他ワークショップでの意見	【歩道の整備】 ・金町通り ・本町通り ・駅前中央通り 【交差点の改良】 ・池田橋の西側交差点 【公園の整備】 ・文武館文庫付近 ・湯の里公園 【駐車場の整備】 ・まいん周辺 ・道の駅奥久慈だいご周辺 【地域資源の活用】 ・芭蕉の句碑 ・大子地蔵尊 【まいんの有効活用】 【駅前広場の有効活用】 ・駅前広場（タクシー乗場） 【地元食材の活用促進】 ・まちなか施設や空き店舗 ・観光やな	・歩道がない（狭い）ので危険。 ・通学路が急な坂で危険なため手すりなどの安全設備が必要。 ・歩道が狭く段差があるので危険。 ・特に交差点は危険を感じる。 ・文武館文庫付近にポケットパークを整備。 ・押川と久慈川の水辺をうまく活用した公園整備。 ・イベント時に活用できる駐車場の整備 ・芭蕉の句碑をもっと PR ・参道の整備 ・大子地蔵尊祭礼の PR ・子育ての情報交流施設の設置 ・ベビー用品のリサイクル等 ・鉄道の待ち時間に活用できる交流空間があると良い。 ・まちなかカフェ等気軽に入れる場所をつくって女性が働ける空間を作る。安心して働けるように各店舗に託児所を設ける。 ・お年寄りであれば，例えば囲碁を打てる場所がほしい。 ・学校帰りの学生が集まれる場所もほしい。 ・地元食材の収穫祭やバーベキューができる施設を整備。 ・観光やなの運営は，指定管理者制度にしてはどうか。